

目次

第 1 章 春日井市の環境行政	1
環境基本計画の概要	1
環境関連の主な動向	3
第 2 章 環境目標の達成に向けた施策の展開	4
環境目標の指標一覧	4
全体目標・環境目標 1 環境学習・パートナーシップ	6
環境目標 2 低炭素社会	14
環境目標 3 自然環境	15
環境目標 4 循環型社会	16
環境目標 5 都市環境・生活環境	20
第 3 章 地球温暖化対策実行計画	24
地球温暖化対策実行計画の概要	24
削減目標の進捗状況	25
第 4 章 生物多様性地域戦略	36
生物多様性地域戦略の概要	36
基本方針 1 多様な生き物の生息・生育環境の保全	37
基本方針 2 持続可能な生物多様性の恩恵の享受	38
基本方針 3 生物多様性を支える人材の育成	40

p 1～6、14～16、20、21 は第 1 回環境審議会にて報告済みです。
 上記のうち、追加修正した箇所（p 3 の表、p 6、20 の注釈）に下線
 を引いています。その他のページについては、今回新たに報告する
 ものとなります。

第 1 章 春日井市の環境行政

環境基本計画の概要

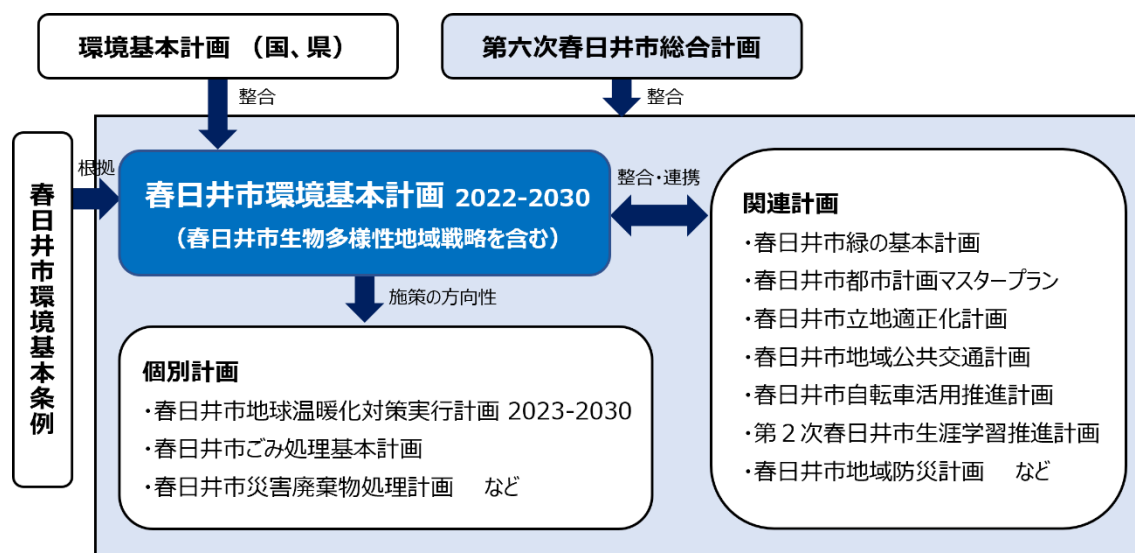
環境基本計画とは

春日井市の豊かな自然環境や生活環境を守り、かけがえのない地球環境を次世代に引き継いでいくことをめざし、市民・事業者・市が自主的かつ積極的に環境の保全等に取り組むとともに、相互に協力し、連携する考え方を明らかにしたものです。

計画期間

2022 年度から 2030 年度までを計画期間とし、長期的に 2050 年を展望します。

計画の位置付け



環境像

豊かな自然と暮らしが調和する 環境にやさしいまち かすがい
 ～わたしたちの未来と地球のために～

施策の体系

環境像を実現するため、5つの環境目標を掲げ、それぞれの環境目標の達成に向けた施策の柱とその具体的な施策を定めています。

環境目標1「環境学習・パートナーシップ」は、環境学習により市民・事業者の意識を高め、市民・事業者・市が連携・協働して、新たな課題を解決することを幅広く推進していくため、全体目標とします。

全体目標・環境目標 1

環境学習・
パートナーシップ



- 1 各世代に応じた環境教育・
環境学習の充実
- 2 誰もが参加できる環境
保全活動の充実

環境教育・環境学習の推進
環境情報の共有と発信

環境保全活動・協働取組みの推進

環境目標 2

低炭素社会



- 1 低炭素社会の実現
- 2 気候変動への適応

省エネルギー活動の推進
低炭素まちづくりの推進

気候変動への適応の推進

環境目標 3

自然環境



- 1 生物多様性の保全
- 2 緑の保全と創出

多様な生き物の生息・生育環境の保全
生物多様性を支える人材の育成

水や緑の保全
緑豊かなまちづくりの推進

環境目標 4

循環型社会



- 1 循環型社会の実現
- 2 廃棄物の適正処理

啓発等によるごみ減量の推進
4 Rの推進

効率的なごみ処理による低コスト化
安全で安定的な処理施設の確保
災害廃棄物の適正処理

環境目標 5

都市環境・
生活環境



- 1 環境と人にやさしい
まちづくり
- 2 良好な生活環境の確保

快適な生活のための基盤整備
多様な交通手段が選択できるまちづくり

公害防止・環境負荷の低減
上下水道の維持管理
合併処理浄化槽への転換促進

指標

環境目標ごとに目標の達成状況を示す達成指標と、達成指標の実現に向けた具体的な行動を示す個別指標を設定しています。

計画の推進

市民・事業者・市のそれぞれが積極的に環境活動を行っていくことが重要です。

「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」を中心に、市民・市民団体・事業者・市などが、幅広く参加、連携して、本計画を推進していきます。

環境関連の主な動向

近年の主な動向（直近 5 年）

年	国際社会	国	愛知県	春日井市
2020		・気候危機宣言 ・2050 年カーボンニュートラル宣言	・レッドリストあいち 2020 及びレッドデータブックあいち 2020 公表 ・愛知県気候変動適応計画策定	・第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 ・都市計画マスタープラン策定 ・地域強靱化計画策定
2021	・ノーベル物理学賞（地球気候の物理モデルの開発）受賞 ・生物多様性条約第 15 回締約国会議(COP15)第一部開催 ・気候変動枠組条約第 26 回締約国会議(COP26)開催	・地球温暖化対策推進法改正（温室効果ガス 2050 年実質ゼロ） ・地球温暖化対策計画改訂 ・パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略策定（2050 年カーボンニュートラル実現）	・あいち生物多様性戦略 2030 策定 ・第 5 次愛知県環境基本計画策定	・地域公共交通計画策定 ・自転車活用推進計画策定 ・緑の基本計画策定 ・ゼロカーボンシティ かすがい宣言
2022	・気候変動枠組条約第 27 回締約国会議(COP27)開催 ・生物多様性条約第 15 回締約国会議(COP15)第二部開催	・省エネ法改正	・あいち地球温暖化防止戦略 2030 改定	・環境基本計画 2022-2030 策定 ・公共施設等マネジメント計画改定
2023	・「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第 6 次評価報告書」採択 ・気候変動枠組条約第 28 回締約国会議（COP28）開催 ・G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合開催	・生物多様性国家戦略 2023-2030 策定 ・GX 推進戦略策定 ・気候変動適応法改正		・第六次総合計画改定 ・地球温暖化対策実行計画 2023-2030 改定 ・第 2 次生涯学習推進計画改定
2024	・<u>気候変動枠組条約第 29 回締約国会議（COP29）開催</u>	・第六次環境基本計画策定		・春日井市立地適正化計画一部改定 ・第 4 次春日井市産業振興アクションプラン策定 ・春日井市役所地球温暖化対策行動指針改定 ・春日井市一般廃棄物処理基本計画策定

第2章 環境目標の達成に向けた施策の展開

環境目標の指標一覧

【進捗状況の見方】

-  目標を達成、または目標達成に向けて順調に進んでいます。
-  改善傾向にありますが、さらなる努力が必要です。
-  改善の傾向にありません。

環境目標		指標	前回値 (2022 年度)	最新値 (2023 年度)	目標値 (2030 年度)	進捗※ 状況	市関連計画
1 環境学習・ パートナーシップ	達成	☆環境まちづくり参加人数 (総人口比)	21.1%	22.4%	維持(16.9%)		－
	個別	☆青空教室、出前講座の参加人数 [延べ]	88,956 人	94,461 人	120,000 人		－
		☆自然環境の保全を行う市民団体などの 会員数 [延べ 単年度]	552 人	572 人	700 人 (2026 年度)		第六次総合計画
		環境に配慮した事業所数 [延べ 単年度]	147 事業所	集計中	増加		－
2 低炭素社会	達成	温室効果ガス総排出量 (2013 年度比)	-19.2% (2021 年度)	集計中 (2022 年度)	－46%		地球温暖化対策 実行計画
		☆民生家庭部門 温室効果ガス排出 量 (2013 年度比)	-15.0% (2021 年度)	集計中 (2022 年度)	－66%		地球温暖化対策 実行計画
	個別	☆各世帯の1か月当たりの平均の電気 使用量	280kWh	276kWh	245kWh		地球温暖化対策 実行計画
		市役所エネルギー起源 CO ₂ 排出量 (公用車除く)	21,003t-CO ₂	集計中	15,863 t-CO ₂		市役所地球温暖 化対策行動指針
		☆災害への備えをしている家庭の割合	50.5% (2016 年度)	55.3% (2021 年度)	60.0% (2026 年度)		第六次総合計画
		☆熱中症の搬送人数	137 人	119 人	減少		－
		雨水流出抑制施設 [累計]	56 施設	56 施設	56 施設		－
3 自然環境	達成	自然環境への満足度	36.1% (2016 年度)	23.5% (2021 年度)	増加		第六次総合計画
		市内全体の緑被率	42.0% (2014 年度)	40.6% (2020 年度)	維持(40.6%)		緑の基本計画
	個別	☆自然環境保全活動推進員の委嘱人 数 (任期2年) [延べ]	226 人 (2021 年度)	249 人	350 人		生物多様性地域 戦略
		民有地緑化の箇所数を増やす (あいち森と緑づくり事業)	3 箇所	4 箇所	5 箇所		緑の基本計画
		☆アダプト・プログラム参加団体数	10 団体	9 団体	15 団体		緑の基本計画
		☆公園・緑地づくりのワークショップの実 施数 [累計]	2 公園	4 公園	10 公園		緑の基本計画

環境 目標		指標	前回値 (2022 年度)	最新値 (2023 年度)	目標値 (2030 年度)	進捗※ 状況	市関連計画
4 循環型社会	達成	1人1日当たりごみ排出量	687 g	660 g	640g (2033 年度)		一般廃棄物処理 基本計画
	個別	☆1人1日当たり家庭系ごみ排出量	496 g	472 g	463g (2033 年度)		一般廃棄物処理 基本計画
		事業系ごみ排出量	21,470 t	21,070 t	19,600 t (2033 年度)		一般廃棄物処理 基本計画
		☆ごみ出しルールやマナーが守られているごみステーションの割合	88.0%	89.0%	90.0% (2024 年度)		第六次総合計画
		資源化率 (事業者による資源化量含む)	21.8%	22.4%	28.0% (2033 年度)		一般廃棄物処理 基本計画
5 都市環境・生活環境	達成	交通の利便に対する満足度	2.53 (2016 年度)	2.86 (2021 年度)	2.80 (2025 年度)		地域公共交通計画
		環境基準達成率（大気・水質・騒音）	12 項目中 10 項目達成	12 項目中 10 項目達成	項目ごとに 100%達成		—
	個別	☆市内バスの年間利用者数	4,043 千人 (2022 年度)	4,853 千人 (2023 年度)	5,415 千人 (2025 年度)		地域公共交通計画
		基幹的公共交通の人口カバー率 (居住誘導区域)	65.7% (2010 年度)	65.3% (2020 年度)	65.5%以上 (2036 年度)		立地適正化計画
		自転車通行空間の整備延長【累計】	32.1km	35.2km	53.9km (2023 年度)		自転車活用推進 計画
		污水处理人口普及率	88.5% (2021 年度)	88.6% (2022 年度)	95.0% (2026 年度)		第六次総合計画

※：データが得られた最新年度時点での評価

☆：市民の努力が反映される指標

〔延べ〕：毎年度加算され、出前講座と青空教室ともに参加しているなど重複がある値

〔延べ単年度〕：単年度の値だが、複数の市民団体に加入しているなどの重複がある値

〔累計〕：毎年度加算され、重複がない値

下線部：市関連計画の改定または策定に伴い目標値等を変更しています。

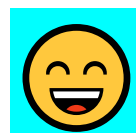
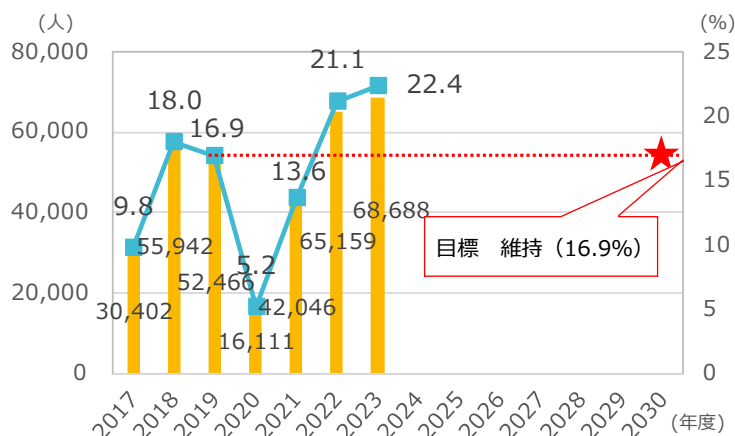
全体目標・環境目標1 環境学習・パートナーシップ



環境について学び、市民・事業者・市が連携・協働して環境にやさしい行動を行うまちを目指します。

指標の進捗状況

達成指標 ☆環境まちづくり参加人数（総人口比）



2023 年度

22.4%

環境まちづくり参加人数は、前年度から増加し、目標値に達しています。

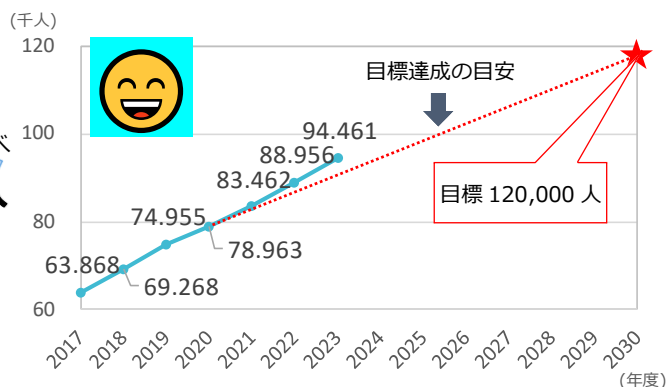
個別指標

☆青空教室、出前講座の参加人数 [延べ]

ごみの減量などについて学ぶ青空教室は、小学校 37 校、幼保育園 51 園で実施しています。

地球温暖化について学ぶ出前講座は、小学校等で 8 回実施しています。

2023 年度 延べ
94,461 人



個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆自然環境の保全を行う市民団体などの会員数 [延べ 単年度]	552 人 (2022 年度)	572 人 (2023 年度)	700 人 (2026 年度)		第六次総合計画
環境に配慮した事業所※数 [延べ 単年度]	147 事業所 (2022 年度)	集計中 (2023 年度)	増加 (2030 年度)		-

※：環境に配慮した事業所：ISO14001 やエコアクション 21 という環境マネジメントシステムを導入している事業所、かすがいエコオフィス認定事業所または県の地球温暖化対策計画書を提出している事業所

施策の展開

○子ども環境アカデミー

子ども（小学4～6年生）とその保護者を対象に、見学や体験を交え楽しみながら家族ぐるみで環境について学び、考えるきっかけづくりとするため、全5回の連続講座を実施しました。



子ども環境アカデミー

2023年度は20組41名の方が受講し、環境への取組みを率先して実施するエコファミリーの育成を図ることができました。

実施内容（2023年度）

講座名	講師	開催日	参加者
日本のカメと外国のカメ ～カメを通じて外来種について知ろう～	日本カメ自然誌研究会 代表 矢部 隆 (理学博士)	6月24日（土）	17組 35名
エコパーティーによろこそ ～楽しく環境を学んでエコ博士になろう～	環境省登録 環境カウンセラー 樋口 裕子	8月26日（土）	16組 33名
親子おもしろ実験室 ～水質調査体験と液体ちっ素を使った実験～	市職員	9月30日（土）	16組 35名
マシンガンズ滝沢さんと考えるごみ問題 ～清掃員から見た景色～	お笑い芸人 マシンガンズ 滝沢 秀一	12月9日（土）	270名※
地球温暖化と省エネ	愛知県地球温暖化 防止活動推進員 佐藤 文彦	1月13日（土）	14組 29名

※：子ども環境アカデミー参加者は10組21名



親子おもしろ実験室（第3回）



地球温暖化と省エネ（第5回）

○市民環境アカデミー

環境について幅広い知識を有し、環境への取り組みを実践できるリーダー的な役割を担う人材を育成するため、地球温暖化、資源循環、生物多様性、海洋汚染など、幅広く環境について講義などを通じて学べる全6回講座を実施しました。



市民環境アカデミー

2023年度は受講者48人のうち、全6回中5回以上出席した33人の方へ修了証を交付しました。

実施内容（2023年度）

＜テーマ＞ 講座名	講師	開催日	参加者
＜エネルギー環境政策＞ エネルギーと環境問題	名古屋学院大学 経済学部 教授 木船 久雄	9月29日（金）	44名
＜地質学と地球温暖化＞ 地質学と地球温暖化	名古屋経済大学 犬山学研究センター 客員教授 高橋 裕平	10月26日（木）	44名
＜カーボンニュートラル＞ モータースポーツにおける カーボンニュートラル	株式会社日本レース プロモーション テクニカルアドバイザー 永井 洋治	11月21日（火）	37名
＜ごみ減量、リサイクル＞ マシガンズ滝沢さんと考えるごみ問題 ～清掃員から見た景色～	お笑い芸人 マシガンズ 滝沢 秀一	12月9日（土）	270名※
＜植物分類学・生物多様性＞ 生物多様性は大事なの？ ～植物を求める旅から見たこと～	名古屋大学博物館 准教授 西田 佐知子	1月16日（火）	37名
＜海洋汚染の防止、海洋生態系・ 生物多様性の保全＞ 海洋汚染の防止と国際社会	中部大学 国際関係学部国際学科 教授 加々美 康彦	2月15日（木）	33名

※：市民環境アカデミー参加者は35名



エネルギー環境政策の講義（第1回）



植物分類学・生物多様性の講義（第5回）

○市民環境フォーラム

市民の環境活動への取組みの推進と団体や個人等の交流促進や環境情報を提供するために市民環境フォーラムを開催しています。



市民環境フォーラム

2023年度は、かすがい環境賞及び環境絵画コンクール春日井市長賞の表彰式、市民団体等活動発表、お笑いコンビ「マシガンズ」として活動の傍ら、ごみ収集会社に就職され、清掃員の日常を綴ったツイートが人気を集める、滝沢秀一氏をお迎えした基調講演を行いました。

基調講演では、ごみ問題・食品ロス・食料危機といった問題は全てつながっており、モノで溢れ、食料が集まる国に住んでいる自分たちから考え方を变えることが大切であることをお話しいただき、地球環境を考える良い機会となりました。

実施内容（2023年度）

開催日	場所	参加者	内容
12月9日 (土)	東部市民センター	270人	○かすがい環境賞 個人：竹中 克、二宮 久夫、熊崎 邦子 団体：かすがいシェアリングネイチャーの会、みろく山麓の自然を守る会、西ふれ花ボラ、春日井市管工事業協同組合、株式会社ジーシーデンタルプロダクツ ○環境絵画コンクール春日井市長賞 山田 悠登 タイトル：大好きな海の生き物達 ○市民団体等活動発表 ワイルドワイフ、中部大学春日丘高等学校インターアクトクラブ ○基調講演 テーマ：マシガンズ滝沢さんと考えるごみ問題 ～清掃員から見た景色～ 講師：お笑い芸人「マシガンズ」 滝沢 秀一



市民団体等活動発表



基調講演

〇かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議

市民、事業者、市の三者協働による環境まちづくりを推進する組織として、2002年12月に「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議（以下、「PS会議」という。）」が設立され、2023年度末の会員数は市民27人・市民団体16団体・事業者6社となっています。



かすがい環境まちづくり
パートナーシップ会議

PS会議は、市の環境に関するイベントに参加・共催するとともに、市民や市民団体の連携の輪を広げるため、様々な自主イベントを実施しました。

主なイベント（2023年度）

イベント名	開催日	内容
ホタルの観察会	6月 10日 (土)	少年自然の家の多目的広場前でホタルについての解説や観察にあたっての注意点を説明した後、野草園へ移動し、ホタルの観察を行った。ホタルを初めて見たという子どもたちから、久しぶりに見たという大人まで、それぞれが暗闇に淡く光る風情を楽しんだ。
森とふれ合う間伐体験ツアー ～水源林交流会～	9月 9日 (土)	森林がもたらす恩恵や水源かん養の大切さを学ぶため、春日井市の水道水源地域である木曽川上流域の中津川市根ノ上高原にて、間伐体験ツアーを開催した。森林内に10m四方の調査エリアを作り、木の本数や太さ、樹高を見ていくことで、混み具合や成長の度合いを確認する「森の健康診断」を行い、その後に関伐体験を行った。切り倒すまでに時間がかかり苦戦していたが、各々が楽しそうに取り組むことができた。
親子で楽しくエコ・クッキング	2月 3日 (土)	事業者会員である東邦ガスネットワーク株式会社の協力のもと、環境のことを考えた「買い物・料理・片付け」を実践する『エコ・クッキング』を開催し、講師から教わったエコポイントを実践しながら、エコ・クッキングに挑戦した。 普段から料理をする人もそうでない人も、楽しそうに調理し、できあがった料理を笑顔いっぱい笑顔で頬張る姿を見ることができた。
ポイ捨て・ふん害防止啓発活動	3月 10日 (日)	公園内清掃グループ、ふれあい緑道啓発清掃グループに分かれ実施され、PS会議として参加して公園内の清掃を行った。 たばこの吸い殻やお菓子の包装などが多少あるものの、全体的にごみは少なくきれいに保たれており、暖かい日差しのもと、落合公園内の自然に触れ、春を感じながらの活動となった。



間伐体験ツアー



エコ・クッキング

○市民団体による環境保全活動

持続可能な社会の実現に寄与するため、PS 会議の市民団体会員により、様々な環境保全活動が行われています。

PS 会議の市民団体会員による環境保全活動（2023 年度）

市民団体名	活動内容
ガールスカウト愛知県第 110 団	ガールスカウトの理念に則り、森・水などの知識を自然体験を通して身近なものとするプログラムを年間通して実施した。
春日井 SDGs 推進ネットワーク	国連が 15 年間（2016～2030 年）で達成するために掲げた 17 の国際目標である『持続可能な開発目標（SDGs）』を推進することを目的に活動した。
かすがい里山自然楽校	潮見坂平和公園内の自然環境整備を通じて、希少種や重要な植物群の保全を行った。
春日井里山保存会	春日井市指定希少野生動植物の保護活動や生息調査、休耕田ビオトープの保守保全を行った。
かすがいシェアリング ネイチャーの会	ネイチャーゲームを通じて自然への憧憬を深め、自然環境の大切さを学び伝える活動を行った。
春日井自然友の会	ホタルの生息環境を整えるため、産卵しやすい護岸の整備を行ったほか、イノシシから希少植物を守るため、ネットの裾をロープ留めで固定した。
春日井スカウト団協議会	ボーイスカウト、ガールスカウトで構成され、青少年の健全育成を目標とし、野外活動を通して自然を学び友情協調の精神を育てる事を目的として活動した。
かすがい東部丘陵自然観察会	自然環境の保全のために、少年自然の家イベントや小学校の野外学習支援・自然観察会、モニタリング 1000 の調査を行った。
環境学習ネットワークグループ	みろくの森でギブチョウの卵数調査や倒木処理などを行い、里山整備や保全活動を実施した。また、小学校の環境教育支援の一環として、区内の新池、庄内川、高座山をフィールドとした自然探検を実施した。
高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会	植樹したハナモモの手入れ（施肥、薬剤散布）の他、新しく花壇を改修、造設し、四季折々の花を育てた。また、3 月末に市民マルシェやステージ、クイズラリーを楽しむ「ハナモモまつり」を開催し、自然環境保護について啓発を行った。
里山エコクラブ （旧：たかくらこどもエコクラブ）	高座小学校の理科室で廃棄される材料を使ったダンボールと爪楊枝で作る独楽、「トイレットペーパーの芯で作る飾り」、「お正月の昔からの遊び福笑い」などのエコ工作を行った。また、夏休みには潮見坂平和公園で自然探検や竹での工作を行った。
就労相談支援センター 紙ひこうき	市内外の企業や個人等に、フードロスの削減に向けた理解と協力を求めるとともに、調理実習やフードドライブを開催した。
特定非営利活動法人高蔵寺どんぐり s	ニュータウン周辺の環境保全活動や地域住人の暮らし悩みごとの手助けを行った。また、人と人を結びつけるイベントを催し、活力があり住み継いでいける「まちづくり」を目指し活動を行った。
特定非営利活動法人ザ・希望	障がい者・高齢者の借り上げた農地を利用して市民菜園事業、安心安全のための成年後見制度の利用等の援助事業を行った。
みろく山麓の自然を守る会	活動場所である築水地北湿地と散策路は、開設から 30 年ほど経過していることから、散策路の老朽化補修、アカマツの立ち枯れ除去、里山の生態系を阻害する国内外来種マテバシイの繁茂対策など多くのことに参加者全員で力を合わせて取り組んだ。
ワイルドワイフ	親子で生き物の魅力や発見に繋がる体験型講座「生き物すごいぜ」を実施した。また、活動目的である「自然の大切さに気づき、行動できる人」の育成に共感された方へ、指導者講習も行った。



春日井自然友の会



里山エコクラブ



みろく山麓の自然を守る会

○環境絵画コンクール春日井市長賞

パナソニック株式会社 空質空調社では、子どもの頃から環境を意識した行動ができるよう「環境絵画コンクール」を実施しています。市はこの趣旨に賛同し後援するとともに、特別賞「春日井市長賞」を設け、受賞作品をごみ収集車にラッピングしています。



環境絵画
コンクール
春日井市長賞



第 18 回環境絵画コンクール
春日井市長賞作品



受賞作品がラッピングされた
ごみ収集車

○かすがいエコオフィス認定事業所の拡大と支援

節電や節水、ごみの減量化、次世代自動車の導入など環境に配慮した取組みを実施している事業所を応援するため、「かすがいエコオフィス認定制度」を設けています。



かすがいエコオフィス
認定制度

「かすがいエコオフィス」に認定されると、認定証と認定ステッカーが交付され、環境活動のPRに活用できるほか、「エコオフィスかすがい」のロゴマークを名刺やチラシ等に印刷して使用することができます。また、環境に配慮した取組みを行う事業所として市ホームページで紹介しています。2023年度末に認定されている「かすがいエコオフィス」は73事業所です。



認定ステッカー

○エコワールド

春日井まつりにおいて、かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議を始めとする市民団体、事業者、市等が協働でブースを出展し、環境に関する啓発を行う「エコワールド」を開催しています。

2023年度は、計13団体が出展し、2日間で延べ19,917人の方にご来場いただきました。

No.	出展団体
1	かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議
2	かすがいシェアリングネイチャーの会
3	愛知工業大学 機械学科 モビリティ研究室
4	中部大学 ESD エコマネーチーム
5	愛知日産自動車株式会社
6	王子製紙株式会社 春日井工場
7	東邦ガスネットワーク株式会社 春日井事業所
8	日本郵便株式会社
9	パナソニック エコシステムズ株式会社
10	春日井市環境政策課
11	春日井市環境保全課・環境分析センター
12	春日井市ごみ減量推進課
13	春日井市清掃事業所



自作巨大ゼンマイカーの展示
(愛知工業大学 機械学科 モビリティ研究室)



大きな折り紙体験
(王子製紙株式会社 春日井工場)

環境目標 2 低炭素社会



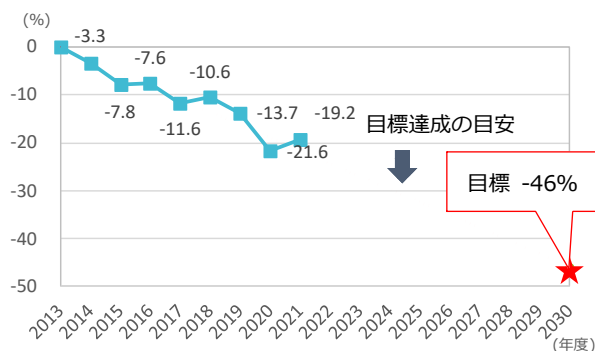
関連



省エネルギーの取組みが市民や事業者に定着した低炭素なまちをめざします。

指標の進捗状況

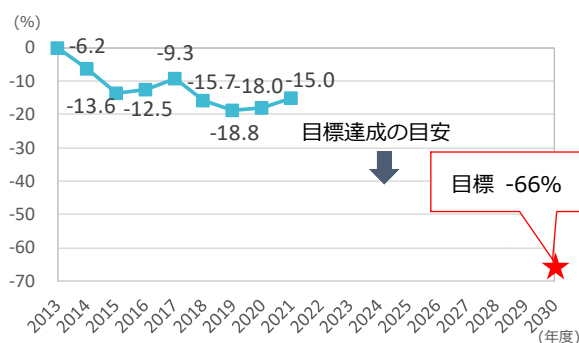
達成指標 温室効果ガス総排出量（2013 年度比）



2022 年度
集計中

2022 年度 集計中

☆ 民生家庭部門 温室効果ガス排出量（2013 年度比）



2022 年度
集計中

2022 年度 集計中

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆ 各世帯の 1 か月当たりの平均の電気使用量	280kWh (2022 年度)	276kWh (2023 年度)	245kWh (2030 年度)		地球温暖化対策実行計画
市役所エネルギー起源 CO ₂ 排出量 (公用車除く) ※	21,003t-CO ₂ (2022 年度)	集計中 (2023 年度)	15,863t-CO ₂ (2030 年度)		市役所地球温暖化対策行動指針
☆ 災害への備えをしている家庭の割合	50.5% (2016 年度)	55.3% (2021 年度)	60.0% (2026 年度)		第六次総合計画
☆ 熱中症の搬送人数	137 人 (2022 年度)	119 人 (2023 年度)	減少 (2030 年度)		-
雨水流出抑制施設 [累計]	56 施設 (2022 年度)	56 施設 (2023 年度)	56 施設 (2030 年度)		-

※：電力会社が供給した電力量と排出係数により算出した値から、排出クレジットや固定価格買取制度に伴う調整等を反映した値
下線部：2024 年 3 月に「市役所地球温暖化対策行動指針」を改定したことに伴い、目標値を変更しています。

施策の展開については、第 3 章 地球温暖化対策実行計画 (p28～) を参照してください。

環境目標 3 自然環境



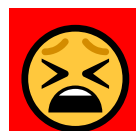
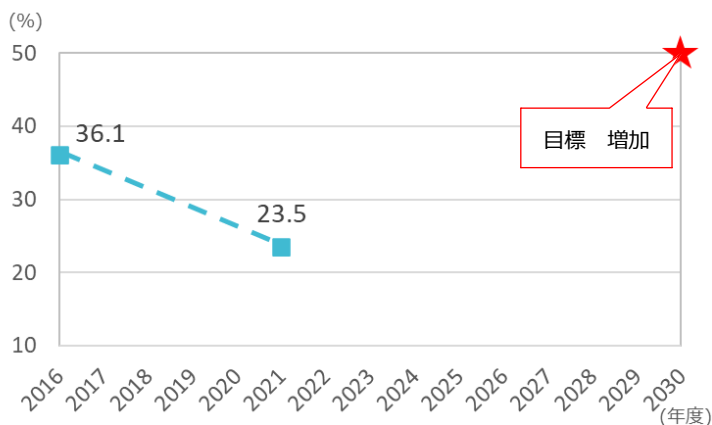
関連



自然環境や生態系が保全され、豊かな自然の恵みを楽しむまちをめざします。

指標の進捗状況

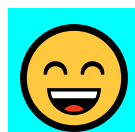
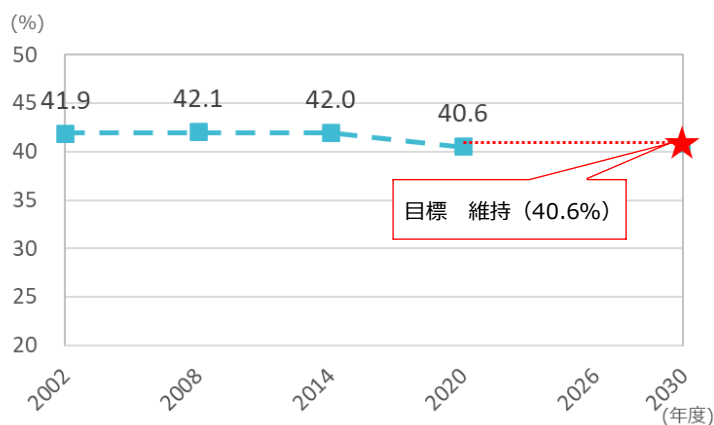
達成指標 自然環境への満足度



2021 年度
23.5%

2021 年度の市民意識調査の結果、自然環境への満足度は減少傾向となっています。

市内全体の緑被率



※ 2020 年度
40.6%

2020 年度に算出した市内全体の緑被率は 40.6%であり、この値を維持することを目標としています。

※：データが得られた最新年度時点での評価

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆自然環境保全活動推進員の委嘱人数（任期2年）〔延べ〕	226 人 (2021 年度)	249 人 (2023 年度)	350 人 (2030 年度)		生物多様性地域戦略
民有地緑化の箇所数を増やす（あいち森と緑づくり事業）	3 箇所 (2022 年度)	4 箇所 (2023 年度)	5 箇所 (2030 年度)		緑の基本計画
☆アダプト・プログラム参加団体数	10 団体 (2022 年度)	9 団体 (2023 年度)	15 団体 (2030 年度)		緑の基本計画
☆公園・緑地づくりのワークショップの実施数〔累計〕	2 公園 (2022 年度)	4 公園 (2023 年度)	10 公園 (2030 年度)		緑の基本計画

施策の展開については、第4章 生物多様性地域戦略（p37～）を参照してください。

環境目標 4 循環型社会



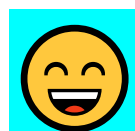
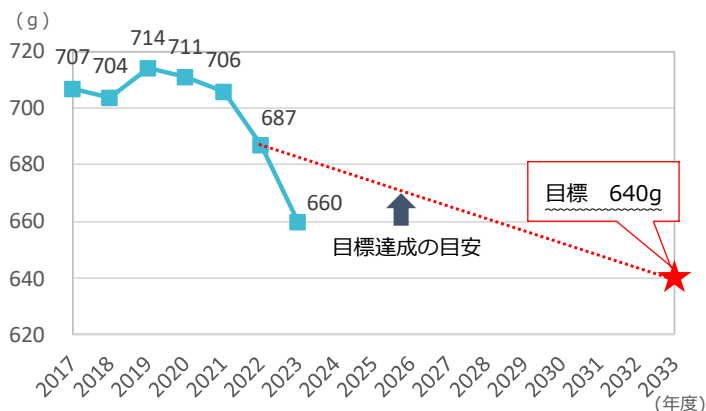
関連



4R やごみの適正処理に取り組み、ごみを減らし資源を循環することができるまちをめざします。

指標の進捗状況

達成指標 1人1日当たりごみ排出量



2023年度
660g

1人1日当たりごみ排出量は目標達成に向けて順調に進んでいます。
前年度に比べ減少しています。

個別指標

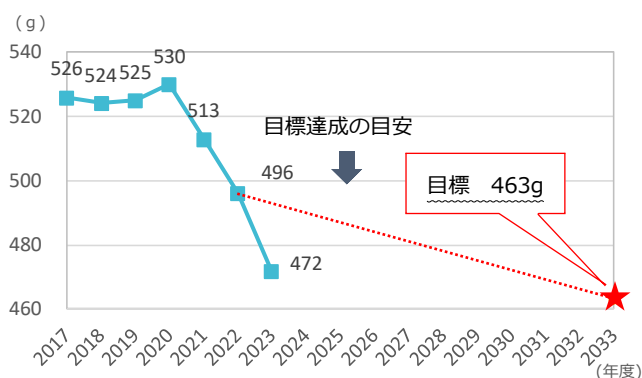
☆ 1人1日当たり家庭系ごみ排出量

1人1日当たり家庭系ごみ排出量は目標達成に向けて順調に進んでいます。

前年度に比べ減少しています。



2023年度
472g



個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
事業系ごみ排出量	21,470 t (2022 年度)	21,070 t (2023 年度)	19,600 t (2033 年度)		一般廃棄物処理基本計画
☆ごみ出しルールやマナーが守られているごみステーションの割合	88.0% (2022 年度)	89.0% (2023 年度)	90.0% (2024 年度)		第六次総合計画
1人当たりごみ処理費用	14,741 円 (2021 年度)	14,292 円 (2022 年度)	11,131 円 (2028 年度)		旧ごみ処理基本計画
資源化率 (事業者による資源化量含む)	21.8% (2022 年度)	22.4% (2023 年度)	28.0% (2033 年度)		一般廃棄物処理基本計画

下線部：2024年3月に「ごみ処理基本計画」と「生活排水処理基本計画」を統合した「一般廃棄物処理基本計画」を策定したことに伴い、目標値等を変更しています。

施策の展開

○環境カレンダー、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」等の利用促進

家庭からのCO₂排出量が分かる「環境家計簿」と「資源・ごみ出しカレンダー」を組み合わせた「環境カレンダー」と、資源・ごみの出し方を詳しく掲載した「資源・ごみの出し方便利帳」を作成し、広く市民に配付することにより、資源分別、ごみの減量や省エネが地球温暖化防止につながる取り組みであることを啓発しました。また、2018年3月に導入したごみ収集日や分別方法の検索機能などを有するスマートフォン用ごみ分別アプリ「さんあ〜る」のインフォメーション機能を活用し、情報提供に努めました。



環境カレンダー



環境カレンダー



ごみ分別アプリ「さんあ〜る」

○青空教室

ごみの減量と分別意識の向上を図るため、小学校教師による社会科研究会と協働で作成した社会科副読本「くらしとごみ」を市立小学校全校（37校）の4年生に配付しました。

また、市職員がごみ処理の状況、ごみの減量、リサイクルの必要性などを説明するとともに、ごみ収集車にごみを積み込む体験をしてもらう「青空教室」を、小学4年生の社会科総合学習として実施しました。（小学校37校、2,708人）

さらに、園児のごみに対する興味関心を高め、子どもを通して家庭にごみの分別等を周知するため、保育園等においても年長児を対象に「青空教室」を実施しました。（保育園・幼稚園51園、1,917人）



青空教室

○エコ先案内人

ごみの減量やリサイクル、家庭でのエコ生活などについて、親子を対象に環境紙芝居やエコクイズ、エコ工作を通して、楽しく分かりやすく案内する「エコ先案内人」を実施しました。毎月1回、日曜日の午前10時から正午まで行い、3月までに延べ219人の参加がありました。

実施内容（2023年度）

No.	開催日	参加者	エコ工作内容
1	4月9日（日）	23人	アメリカンクラッカー
2	5月14日（日）	15人	母の日の花束
3	6月11日（日）	22人	六角パズル
4	7月9日（日）	19人	工作なし
5	8月13日（日）	13人	ポンポンのアイスクリーム
6	9月10日（日）	10人	まつぼっくりのけん玉
7	10月8日（日）	17人	どんぐりのペンダント
8	11月12日（日）	21人	木の実の壁掛け
9	12月10日（日）	12人	巨大まつぼっくりの飾り物
10	1月14日（日）	28人	工作なし
11	2月11日（日）	19人	折り紙のおひなさま
12	3月10日（日）	20人	エコかるた



環境紙芝居

○環境に配慮したごみ処理施設の整備（資源化・廃熱利用）

ごみ処理施設の適切かつ効率的な維持管理を行うために、資源化・廃熱利用に取り組んでいます。2023年度は、市内で回収された飲料缶やガラスびん、ペットボトル等10,022.34tを資源化しました。

ごみ焼却による廃熱を利用した廃熱ボイラによって発電し、その電力を場内で使用するとともに、本庁舎や小中学校等の公共施設112施設（2024年3月末時点）へ供給しています。2023年度は場内で598,805.4GJの廃熱を利用し、発電量は25,137,530kWhとなっています。

○資源分別収集

市内の約 7,500 か所に設置されたごみステーションで、家庭から出た飲料缶・ガラスびん・ペットボトル・新聞紙・雑誌・段ボール・古着・牛乳パックを 2002 年 10 月から、プラスチック製容器包装や金属類を 2013 年 4 月から資源として分別収集しています。



資源・ごみの
出し便利帳

収集にあたっては、ごみ・資源の分別の徹底と排出マナーの向上を目的に、2007 年 2 月から指定袋制度を導入しており、2021 年 10 月からは金属類（発火性危険物）の指定袋（赤色）を導入しています。

資源は、ごみステーションでの収集をはじめ、子ども会や学校などの資源回収団体の活動による回収等があり、新聞、雑誌など 11 種類の資源の分別をしています。

蛍光管の拠点回収は、2019 年 10 月から開始し、2022 年 10 月から西部ふれあいセンター、中央公民館、ささえ愛センターを加えた 15 施設で行っており、2023 年度は 4,731 本回収しました。なお、2020 年 11 月から愛知県電機商業組合春日井支部加盟の一部協力店舗でも回収を始めています。

資源回収状況

	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	市収集	資源回収団体	市収集	資源回収団体	市収集	資源回収団体
新聞	1,574.98 t	384.71 t	1,576.89 t	389.09 t	1,317.93 t	335.22 t
雑誌 (雑がみを含む)	1,641.77 t	183.59 t	1,583.99 t	182.43 t	1,381.11 t	171.96 t
段ボール	1,425.54 t	139.04 t	1,369.41 t	145.11 t	1,290.19 t	146.86 t
古着	531.83 t	21.18 t	458.34 t	19.48 t	411.67 t	17.44 t
牛乳パック	42.41 t	8.27 t	38.63 t	8.30 t	36.26 t	7.47 t
飲料缶	320.43 t	23.41 t (アルミ缶)	282.46 t	24.93 t (アルミ缶)	190.38 t	24.07 t (アルミ缶)
ガラスびん	1,523.73 t	0 t	1,503.35 t	0 t	1,450.46 t	0 t
ペットボトル	819.37 t	—	834.13 t	—	850.09 t	—
天ぷら油	11.17 t	—	9.56 t	—	8.90 t	—
プラスチック製 容器包装	2,850.68 t	—	2,797.94 t	—	2,674.55 t	—
金属類 (小型家電を含む)	765.49 t	—	533.95 t	—	385.34 t	—
合計	11,507.40 t	760.20 t	10,988.65 t	769.34 t	9,996.88 t	703.02 t

環境目標 5 都市環境・生活環境



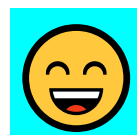
関連



快適な都市環境と良好な生活環境が確保されたまちをめざします。

指標の進捗状況

達成目標 交通の利便に対する満足度



2021 年度

2.86

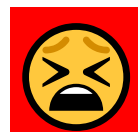
2021 年度の市民意識調査の結果、交通の利便に対する満足度は増加傾向となっています。

環境基準達成率（大気・水質・騒音）

2023 年度は、大気・水質・騒音に関する全 12 項目中 10 項目が環境基準を達成しています。

⑨生活環境項目 BOD の 75% 値（市内中小河川）では、12 地点中 1 地点で環境目標値（市独自目標※）の超過を確認しました。ただし、これらの中小河川が流入する⑧庄内川では、環境基準を満たしています。市では、工場事業場への指導や、合併処理浄化槽の普及促進の取組みを進めるとともに、下水道整備などの総合的な対策を継続して実施します。

⑫環境騒音（自動車騒音）では、環境基準をおおむね達成しており、騒音改善の措置を関係機関に要請する際の限度を超過した地点はありませんでした。



2023 年度

12 項目中
10 項目達成

※：環境基準が適用されない市内中小河川に対して、環境基準を参考に市が独自に定めた環境目標値

項目			区分	測定値	単位	環境基準等	適合地点数 測定値点数	達成率 (%)	適合 可否
大気	①	二酸化硫黄(SO ₂) 日平均の 2 %除外値		0.000、0.002	ppm	日 平 均 の 2 % 除 外 値 が 0.04ppm 以下であること。ただし、日平均 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。	2/2	100	○
		超過日数		0	日				
	②	二酸化窒素(NO ₂) 日平均値の年間 98%値		0.009～0.025	ppm	日 平 均 の 年 間 98% 値 が 0.06ppm 以下であること。	4/4	100	○
	③	浮遊粒子状物質(SPM) 日平均の 2 %除外値		0.024～0.031	mg/m ³	日 平 均 の 2 % 除 外 値 が 0.10mg/m ³ 以下であること。ただし、日平均 0.10mg/m ³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。	4/4	100	○
		超過日数		0	日				
	④	一酸化炭素(CO) 日平均の 2 %除外値		0.34	ppm	日平均の 2 %除外値が 10ppm 以下であること。ただし、日平均 10ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。	1/1	100	○
		超過日数		0	日				

項目			区分	測定値	単位	環境基準等	適合地点数 測定値点数	達成率 (%)	適合 可否
大気	⑤	揮発性有機化合物 濃度平均値	ベンゼン	0.0007～0.0011	mg/m ³	1年平均値が 0.003mg/m ³ 以下であること。	4/4	100	○
			トリクロロエチレン	<0.0003	mg/m ³	1年平均値が 0.13mg/m ³ 以下であること。	4/4		
			テトラクロロエチレン	<0.0003	mg/m ³	1年平均値が 0.2mg/m ³ 以下で あること。	4/4		
			ジクロロメタン	0.0004～0.0012	mg/m ³	1年平均値が 0.15mg/m ³ 以下 であること。	4/4		
	⑥	大気中のダイオキシン類平均値		0.012、0.020	pg-TEQ/m ³	1年平均値が 0.6pg-TEQ/m ³ 以下であること。	2/2	100	○
水質	⑦	健康項目 (庄内川・市内中小河川)		全項目適合	－	27 項目設定※1	17/17	100	○
	⑧	生活環境項目 生物化学的酸素要求量(BOD) の 75%値 (庄内川)		1.0～3.7	mg/L	2 mg/L 以下又は 5 mg/L 以下 (河川区域による)	5/5	100	○
	⑨	同(BOD)の 75%値 (市内中小河川)		0.6～6.4	mg/L	(市独自目標) 5mg/L 以下	11/12	91.6	×
	⑩	健康項目 (地下水)	メッシュ別調査	全項目適合	－	28 項目設定※2	1/1	100	○
騒音	⑪	環境騒音 (一般)	昼間	39～55	デシベル	55～60 デシベル以下 (地域による)	9/9	100	○
			夜間	35～48	デシベル	45～50 デシベル以下 (地域による)	9/9	100	
	⑫	環境騒音 (自動車騒音)	昼間	65～72	デシベル	70 デシベル以下	10055/10075	※3 99.8	×
				83.3～100	%				
			夜間	61～69	デシベル	65 デシベル以下	10035/10075	※3 99.6	
				67.9～100	%				

※1：カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、P C B、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン の 27 項目

※2：※1のうち、シス-1,2-ジクロロエチレンに代わり、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレンを加えた 28 項目

※3：騒音⑫環境騒音 (自動車騒音) の達成率は、対象とする全戸数の達成率

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆市内バス※1の年間利用者数	4,043 千人 (2022 年度)	4,853 千人 (2023 年度)	5,415 千人 (2025 年度)		地域公共交通計画
基幹的公共交通の人口カバー率 (居住誘導区域)	65.7% (2010 年度)	65.3% (2020 年度)	65.5%以上 (2036 年度)		立地適正化計画
自転車通行空間の整備延長 [累計]	32.1km (2022 年度)	35.2km (2023 年度)	53.9km (2023 年度)		自転車活用推進計画
污水处理人口普及率※2	88.5% (2021 年度)	88.6% (2022 年度)	95.0% (2026 年度)		第六次総合計画

※1：名鉄バス及びかすがいシティバス

※2：污水处理人口普及率：下水道のほか、集中処理浄化槽や合併処理浄化槽などにより汚水を衛生的に処理する設備が普及している地区の人口の総人口に対する割合

下線部：2024 年 3 月に「立地適正化計画」を一部改定したことに伴い、目標値の年度を変更しています。

施策の展開

○高蔵寺ニューモビリティタウン構想事業

ラストマイル（バス停から自宅までの道）交通を支えることを目的に、市と名古屋大学が連携し、2017 年度以降ゆっくり自動運転送迎サービスの実証実験を実施してきました。2022 年 8 月には、送迎サービスの担い手として地元住民により NPO 法人が設立され、同年 10 月からは有償運行が開始（サービス実装）、2023 年 2 月からは国内初となる自家用有償旅客運送によるオンデマンド型自動運転サービスが開始されました。



高蔵寺ニューモビリティ
タウン構想



ゆっくりカート

○かすがいシティバス

公共交通空白地域における昼間の時間帯の高齢者の移動手段の確保及び環境負荷の軽減を目的として、4 路線（東北部線、東南部線、西環状線、南部線）と 1 区域で、かすがいシティバスを運行しています。環境にやさしい交通手段の一つとして、多くの市民が利用しています。運賃は、200 円の均一運賃（高齢者等一部割引有）となっています。



かすがいシティバス

かすがいシティバス利用者数

2021 年度	2022 年度	2023 年度
261,370 人	295,334 人	320,551 人



かすがいシティバス

また、公共交通の利用促進や利用者の利便性向上、運行事業者の負担軽減などを目指し、シティバスのデジタルチケットの購入や公共交通の経路検索、タクシーの呼出などができる交通総合ウェブサイト（MaaS ウェブアプリ）「move! かすがい」を 2023 年 1 月に開設しました。2023 年 10 月には更なる利用促進のため、デジタルチケットの券種を追加するとともに、料金を改定し、試験運用を継続しています。



MaaS ウェブアプリ

○事業所立入（大気・水質汚濁、土壌・地下水、騒音・振動、悪臭）

公害防止のため、水質汚濁防止法など、各種法令等に基づいて事業所の立入調査を行い、設備の維持管理状況等を確認することにより、規制基準の遵守や有害物質の適正管理、地下浸透の防止等の指導を行っており、2023 年度における事業所立入件数は合計で 265 件となっています。

事業所立入件数（2023 年度）

	大気・悪臭	水質汚濁	土壌・地下水	騒音・振動
立入件数	51	117	28	69

○合併処理浄化槽の設置費補助

生活排水の排出による公共用水域の水質汚濁の防止を図るため、生活雑排水（台所、風呂及び洗濯等の排水）と、し尿を併せて処理できる合併処理浄化槽の設置に対し、補助を実施しました。



合併処理浄化槽の
設置費補助制度

合併処理浄化槽設置費補助件数

人槽区分	2021 年度		2022 年度		2023 年度	
	新設基数※1	転換基数※2	新設基数※1	転換基数※2	新設基数※1	転換基数※2
5 人槽	69	45	70	23	120	33
7 人槽	30	33	16	21	25	23
10 人槽	6	0	3	2	8	1
合計	105	78	89	46	153	57

※1：新設基数は建築確認申請を伴う工事

※2：転換基数はくみ取り便槽からの転換も含む

第3章 地球温暖化対策実行計画

地球温暖化対策実行計画の概要

計画の目的

市内から排出される温室効果ガスの削減や気候変動の影響への対処に向け、市民・事業者・市で取り組む対策を区域の自然的社会的条件に応じて、総合的、計画的に進めます。

計画改定の背景

2020年に、国により「2050年カーボンニュートラル宣言」がなされ、本市においても「ゼロカーボンシティ かすがい」を宣言し2050年二酸化炭素排出量実質ゼロをめざしています。

こうした状況の中、2050年カーボンニュートラル実現に向け、温室効果ガス排出量削減目標の見直しや再生可能エネルギー導入目標の設定、新たな施策を展開するため、2023年3月に計画を改定しました。

施策体系



計画の期間

基準年度を2013年度、目標年度を2030年度とし、動向の変化等に対応するため、必要に応じ見直すこととします。

削減目標の進捗状況

温室効果ガス排出状況

春日井市の温室効果ガス排出量の推移

(単位：千 t-CO₂)

部門・分野	年度	基準年度 2013	2016	2017	2018	2019	2020	2021	最新年度 2022	増減率 (基準年度比)	増減率 (前年度比)
二酸化炭素	産業部門	762.4	663.6	720.5	694.3	584.9	694.3	573.2	集 計 中		
	業務その他部門	322.4	321.2	325.1	304.7	276.1	304.7	334.0			
	家庭部門	318.5	329.9	306.9	295.5	298.5	295.5	309.3			
	運輸部門	447.1	442.5	437.5	428.0	390.7	428.0	388.6			
	廃棄物分野	16.8	27.6	16.3	19.9	31.5	19.9	25.6			
	二酸化炭素 小計	2,020.3	1,867.2	1,784.8	1,806.3	1,742.3	1,581.8	1,630.8			
その他	メタン	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8			
	一酸化二窒素	6.6	6.6	6.6	6.6	6.3	6.6	6.1			
温室効果ガス 合計		2,030.0	1,876.7	1,794.2	1,815.8	1,751.8	1,591.0	1,639.7			

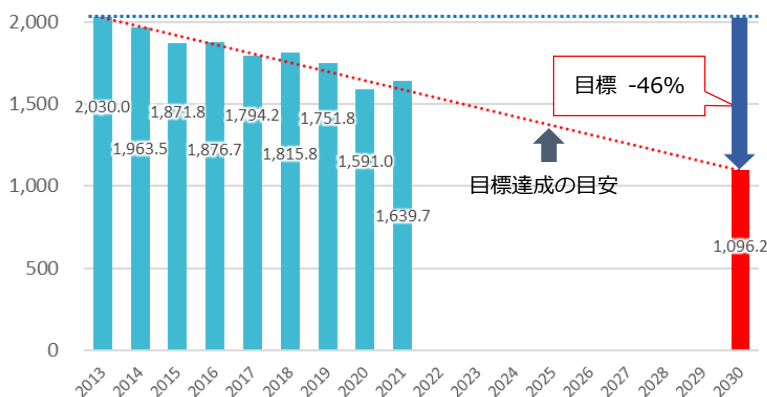
※：四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

※：各種統計データ、算定方法の見直し等により、再計算しています。

※：推計に使用する都道府県別エネルギー消費統計の最新の公表値が 2022 年度のため、最新年度が 2022 年度となっています。

削減目標 温室効果ガス総排出量（2013 年度比）

(千t-CO₂)



温室効果ガス排出量の推移と削減目標の関係

2022 年度
集計中

温室効果ガス排出量増減の主な要因

温室効果ガス排出量の算定後に記載します。

削減目標 部門別二酸化炭素排出量（2013 年度比）

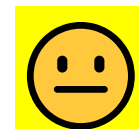
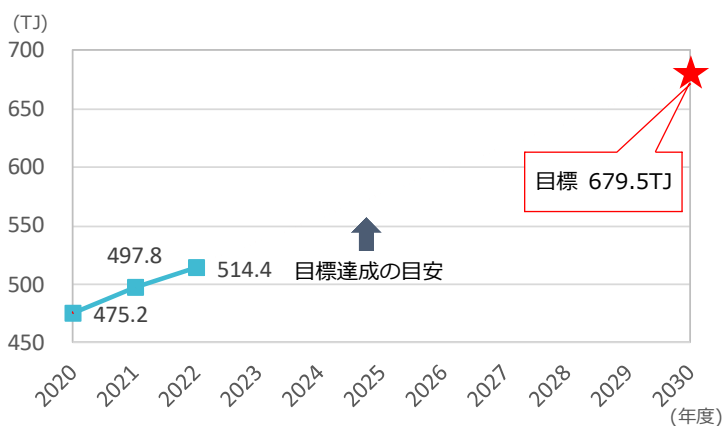
（単位：千 t-CO₂）

部門	基準値 (2013 年度)	前年度 (2021 年度)	最新値 (2022 年度)	目標値 (2030 年度)	進捗 状況	(参考) 最新値 前年度比
産業部門	774.1	573.2	集計中	479.9		集計中
【2013 年度比】	【－】	【－26.0%】		【－38%】		
業務その他部門	408.3	334.0		200.1		
【2013 年度比】	【－】	【－18.2%】		【－51%】		
家庭部門	363.9	309.3	集計中	123.7		集計中
【2013 年度比】	【－】	【－15.0%】		【－66%】		
運輸部門	460.4	388.6	集計中	299.3		集計中
【2013 年度比】	【－】	【－15.6%】		【－35%】		

部門別二酸化炭素排出量増減の主な要因

部門	主な要因（基準年度比）	主な要因（前年度比）
産業部門	部門別二酸化炭素排出量の算定後に記載します。	
業務その他部門		
家庭部門		
運輸部門		

再生可能エネルギー導入状況



2022 年度

514.4TJ

再生可能エネルギーによる発電電力
量は目標達成に向けて改善傾向にあり
ますが、さらなる努力が必要です。

成果指標の進捗状況

緩和策－温室効果ガスの排出を削減

成果指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況※3
太陽光発電（10kW 未満）	43,281kW	46,831kW	57,304kW	
	(2022 年度)	(2023 年度)	(2030 年度)	
各世帯の1か月あたりの 平均電気使用量	280kWh	276kWh	245kWh	
	(2022 年度)	(2023 年度)	(2030 年度)	
業務その他部門の延床面積 1㎡ あたりの年間エネルギー消費量	1.22GJ	1.21GJ	0.74GJ	
	(2020 年度)	(2021 年度)	(2030 年度)	
自動車1台あたりの 年間化石燃料消費量	0.84kL	0.86kL	0.52kL	
	(2020 年度)	(2021 年度)	(2030 年度)	
市役所エネルギー起源 CO ₂ 排出量 （公用車除く）※1	21,003t-CO ₂	集計中	15,863t-CO ₂	
	(2022 年度)	(2023 年度)	(2030 年度)	
青空教室、ゼロカーボン推進講座の 参加人数【延べ】	88,956 人	94,461 人	120,000 人	
	(2022 年度)	(2023 年度)	(2030 年度)	
市内バス※2 の年間利用者数	4,043 千人	4,853 千人	5,415 千人	
	(2022 年度)	(2023 年度)	(2025 年度)	
市内全体の緑被率	42.0%	40.6%	維持	
	(2014 年度)	(2020 年度)	(2030 年度)	
一人1日あたりごみ排出量	687g	660g	660g	
	(2022 年度)	(2023 年度)	(2028 年度)	

※1：電力会社が供給した電力量と排出係数により算出した値から、排出クレジットや固定価格買取制度に伴う調整等を反映した値

※2：名鉄バス及びかすがいシティバス

※3：データが得られた最新年度時点での評価

適応策－既に起きている気候変動への対処

成果指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況
災害への備えをしている 家庭の割合	50.5%	55.3%	60.0%	
	(2016 年度)	(2021 年度)	(2026 年度)	
雨水流出抑制施設【累計】	56 施設	56 施設	56 施設	
	(2022 年度)	(2023 年度)	(2030 年度)	
熱中症の搬送人数	137 人	119 人	減少	
	(2022 年度)	(2023 年度)	(2030 年度)	

施策の展開

〇ゼロカーボン推進啓発講座

<ゼロカーボン推進講座>

しずおか未来エネルギー株式会社の企画のもと、小学校4年生、中学校1年生を対象に、地球温暖化や資源循環などを学ぶ「ゼロカーボン推進講座」を開催しました。



ゼロカーボン
推進講座



小学校4年生向け出前講座



中学校1年生向け出前講座

小学校4年生向けゼロカーボン推進講座の実施概要

実施日	学校名	人数	CO ₂ 削減量※
11月16日(木)	牛山小学校	37名(2クラス)	—
12月15日(金)	押沢台小学校	28名(1クラス)	47.7kg
1月11日(木)	高森台小学校	35名(1クラス)	57.8kg
2月2日(金)	石尾台小学校	30名(1クラス)	57.8kg

※：7 Days チャレンジ（家庭での地球温暖化対策）に取り組み、その結果削減できた二酸化炭素の量の合計値（概算）

中学校1年生向けゼロカーボン推進講座の実施概要

実施日	学校名	人数	選択メニュー
12月5日(火)	中部中学校	357名(11クラス)	グリーンコンシューマーになろう！
2月22日(木)	知多中学校	240名(7クラス)	グリーンコンシューマーになろう！
3月7日(木)	石尾台中学校	115名(4クラス)	地球温暖化と私たちの暮らし

<カーボンフリー環境講座>

株式会社フジドリームエアラインズの企画のもと、小学生と保護者を対象に、空港資源を活用した航空会社の地球温暖化対策を学ぶ「カーボンフリー環境講座」を開催しました。



カーボンフリー
環境講座

当日は、小学生とその保護者 19 組 38 名の方に参加いただき、「FDA における地球温暖化防止の取り組み」の講義の後、格納庫へ移動し、客室・操縦室・機体周りの見学をしました。



講義の様子



機体等の見学

○住宅用太陽光発電システム・燃料電池・蓄電池・HEMSなどの設置費補助

エネルギーを効率的に利用して節約する省エネ機器やエネルギーを創り出す創エネ機器、エネルギーを蓄えて必要なときに利用できる蓄エネ機器等の設置に対し、補助を実施しました。



住宅用地球温暖化対策機器設置費の補助制度

なお、1998年度からの累計で、5,128件、23,929kWの太陽光発電システムに対し補助しました。それにより、年間約10,505t^{※1}の二酸化炭素排出量の削減が見込まれます。

住宅用地球温暖化対策機器設置費補助件数

内容	2021年度	2022年度	2023年度
一体的導入 ^{※2}	78件	114件	94件
燃料電池システム	68件	64件	42件
家庭用エネルギー管理システム	45件	64件	67件
定置用リチウムイオン蓄電システム	114件	144件	132件
窓断熱改修	13件	24件	37件
電気自動車等充給電設備	—	5件	7件

※1：最大出力値×1,000×中部電力ミライズ（2023年度）の二酸化炭素排出係数0.439（kg-CO₂/年）

※2：太陽光発電システム、家庭用エネルギー管理システム、定置用リチウムイオン蓄電システムの一体的導入補助

○エコライフセミナー

家庭でできる地球温暖化対策や環境に優しいライフスタイルへの転換、エネルギーの大切さについて学び、考えるきっかけづくりとして、エコライフセミナーを実施しました。



エコライフセミナー

実施内容（2023年度）

イベント名	開催日	参加者	内容
竹であそぼう！ ～水でっぽう作り～	8月2日 (水)	19組 42人	ゼロカーボンミニ講座で地球温暖化対策や環境に優しいライフスタイルへの転換について学んだ後、竹を使った水でっぽうを作り、その水でっぽうで打ち水を実施した。



ゼロカーボンミニ講座



打ち水

○電力の地産地消

2050 年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向けた地球温暖化対策の取組みを着実に進めていくため、2021 年 6 月 22 日に「ゼロカーボンシティ かすがい」を宣言し、この宣言を推進するため、鈴与電力株式会社と「公共施設への電力供給とゼロカーボン推進に関する連携協定」を結びました。

協定に基づき、市クリーンセンターの廃棄物焼却熱を利用し発電した二酸化炭素を排出しない電力（カーボンフリー電力）の有効活用として、本庁舎や小中学校など市内施設へ電力供給を行っており、2024 年 3 月末時点で 112 施設にカーボンフリー電力を供給しています。

○水源地の自治体等との連携によるカーボンオフセット

地球温暖化対策実行計画に基づく取組みとして、本市の水道水源地である木曽川上流域の町村（木曽町、上松町、南木曽町、木祖村、王滝村、大桑村）との住民交流を通じて、水源地の重要性の認識を共有するとともに、森林保全等による環境負荷の低減を推進するため、カーボンオフセット※を実施しています。

2023 年度は J-クレジット制度を活用し、木曽町より 21t-CO₂、木曽三川水源造成公社より 850t-CO₂のクレジットを購入し、市の事務事業に伴い排出される温室効果ガスをオフセットしました。

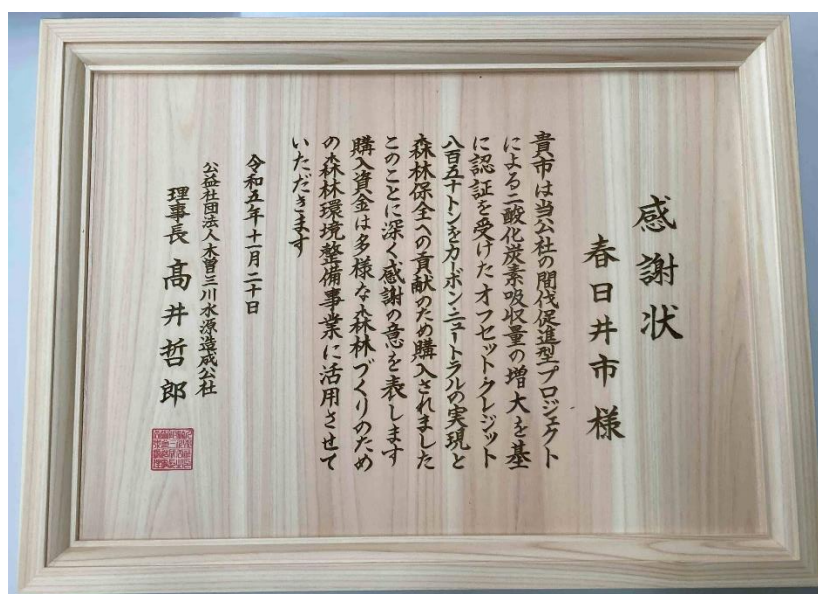
※：事業活動などに伴い発生する温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量で埋め合わせ(オフセット)すること



水源地との連携による
カーボンオフセット



認証書（木曽町）



感謝状（木曽三川水源造成公社）

○太陽光発電システム等の公共施設への導入

公共施設の屋根等を利用し、自然エネルギーを活用した太陽光発電システムの導入を進めています。

太陽光発電システム設置施設

No	施設名	設置年月	最大出力値	年間 CO ₂ 削減量※ ¹
1	第一希望の家	2000 年 2 月	10.0 kW	4.4t-CO ₂
2	丸田小学校	2002 年 2 月	30.0 kW	13.2t-CO ₂
3	勝川駅南口立体駐車場	2002 年 11 月	6.5 kW	2.9t-CO ₂
4	出川小学校	2007 年 2 月	30.0 kW	13.2t-CO ₂
5	小野保育園	2011 年 3 月	5.0 kW	2.2t-CO ₂
6	少年自然の家	2012 年 3 月	40.0 kW	17.6t-CO ₂
7	エコメッセ春日井	2012 年 3 月	10.0 kW	4.4t-CO ₂
8	神領保育園	2013 年 3 月	5.0 kW	2.2t-CO ₂
9	落合公園体育館	2013 年 4 月	10.0 kW	4.4t-CO ₂
10	知多公民館※ ²	2014 年 3 月	49.5 kW	21.7t-CO ₂
11	総合保健医療センター※ ²	2014 年 4 月	47.5 kW	20.9t-CO ₂
12	東部調理場	2014 年 9 月	30.0 kW	13.2t-CO ₂
13	東部市民センター※ ²	2015 年 12 月	60.2 kW	26.4t-CO ₂
14	総合福祉センター※ ²	2016 年 1 月	38.7 kW	17t-CO ₂
15	坂下公民館	2016 年 1 月	20.0 kW	8.8t-CO ₂
16	衛生プラント処理棟※ ²	2016 年 3 月	125.1 kW	54.9t-CO ₂
17	味美ふれあいセンター※ ²	2016 年 3 月	49.5 kW	21.7t-CO ₂
18	西部ふれあいセンター※ ²	2016 年 3 月	47.3 kW	20.8t-CO ₂
19	総合体育館※ ²	2016 年 3 月	51.6 kW	22.7t-CO ₂
20	新藤山台小学校※ ²	2016 年 3 月	30.0 kW	13.2t-CO ₂
21	J R 春日井駅	2016 年 7 月	46.0 kW	20.2t-CO ₂
22	第一保育園※ ²	2016 年 9 月	56.7 kW	24.9t-CO ₂
23	本庁舎	2016 年 12 月	20.7 kW	9.1t-CO ₂
24	清掃事業所※ ²	2016 年 12 月	315.9 kW	138.7t-CO ₂
25	市営下原住宅※ ²	2018 年 11 月	49.2 kW	21.6t-CO ₂
26	東部第 2 調理場	2023 年 4 月	31.1 kW	13.7t-CO ₂
27	高座保育園	2023 年 4 月	20.0 kW	8.8t-CO ₂
28	藤山台保育園	2023 年 4 月	20.0 kW	8.8t-CO ₂
29	交通児童遊園	2023 年 5 月	9.9 kW	4.3t-CO ₂
合計※ ³			1,265.4 kW	555.5t-CO ₂

※¹：最大出力値×1,000×中部電力ミライズ（2023 年度）の二酸化炭素排出係数 0.439 (kg-CO₂/年)

※²：屋根貸しにより設置

※³：四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

○エコライフ DAY の普及啓発

毎月第1水曜日を「エコライフDAY」と定め、市民や事業者の皆さんそれぞれが地球環境に優しい行動を積極的に行う日としています。啓発チラシを配布するほか、庁内放送による周知、環境カレンダー（ごみ出しカレンダー）へ記載するなどエコライフDAYの普及を図っています。



エコライフ DAY

毎年、8月のエコライフDAYに、公共施設及びかすがいエコオフィス認定事業者で打ち水を実施していましたが、2023年度は市民、事業者等へ広く呼びかけ「ゼロカーボンシティ かすがい 打ち水大作戦」と題し、7月23日（日）大暑から8月23日（水）処暑を打ち水期間として、打ち水の実施を呼びかけ、市ホームページで賛同登録を募りました。また、8月2日（水）のエコライフDAYを市内一斉打ち水DAYとし、各所で打ち水を実施しました。



ゼロカーボンシティ
かすがい
打ち水大作戦

賛同登録者（2023年度）

	事業者等	人数
市民	—	65人
事業者	69者	468人
公共施設	47施設	300人
合計	116者（または施設）	833人



市民の打ち水応募写真



愛知タイヤ工業株式会社の打ち水の様子



トヨタホーム株式会社の打ち水の様子

○緑のカーテンの推進

市では、家庭や事業所でできる地球温暖化対策、節電対策、ヒートアイランド対策等として有効な「緑のカーテン」の普及啓発を図るため、実演を交えながらゴーヤの育成方法を学ぶ「緑のカーテン育成講座」を実施しました。



緑のカーテン

2023 年度は、公共施設 80 施設、かすがいエコオフィス認定事業所 6 か所において「緑のカーテン」が設置され、市のホームページにおいても取組みを紹介しました。

緑のカーテン育成講座（2023 年度）

開催日	場所	参加人数
5月16日（火）	坂下公民館	22 人
5月21日（日）	西部ふれあいセンター	8 人
5月23日（火）	南部ふれあいセンター	5 人



緑のカーテン育成講座



苗の植付けの実演

緑のカーテン設置エコオフィス認定事業所（2023 年度）

No.	事業所名
①	愛知タイヤ工業株式会社 春日井工場
2	株式会社大垣共立銀行 春日井支店
3	東濃信用金庫 小野支店
④	株式会社ティーイーティー
5	株式会社エージック
6	株式会社ビクター化学工業所

○：2023 年度新規参加事業所



株式会社ティーイーティーで
設置された緑のカーテン

○熱中症に関する情報提供、注意喚起

市では、7月から9月までの間、当日以降3日間において暑さ指数が33以上となる日が予測される場合に、安全安心情報メールなどを通じて熱中症の注意喚起を行うほか、市ホームページを通じた情報提供を行いました。

メールでの注意喚起（2023年度）

	回数	登録数
安全安心情報メール（随時配信）	5回	23,567件
保育園、幼稚園、地域包括支援センター等へ お知らせメール配信	3回	86件

○熱中症啓発川柳コンテストの実施

市では、熱中症予防対策に対する意識を醸成するため、熱中症を題材とする川柳を募集しました。応募された川柳から選んだ各部門の投票対象作品10作品に対する市民投票を経て、入賞作品を決定し、市ホームページ等で広く周知を行いました。

川柳応募数（2023年度）

部名	応募数（句）
小学生の部	377
中学生の部	181
一般の部	79

令和5年度受賞作品一覧

小学生の部

最優秀
水分はいつもあなたの救命士

優秀
声をかけみんなで守る命の輪

優秀
暑い夏命を守る水と塩

中学生の部

最優秀
無理するな熱中症で人は死ぬ

優秀
無理せずに休むこともね仕事だよ

優秀
マイボトル命の水を忘れずに

一般の部

最優秀
エアコンとむぎ茶で逃げ切り今は秋

優秀
持ったかな？財布・携帯マイボトル

優秀
ポケットに水飲んでねと孫のメモ

○雨水流出抑制施設の設置促進

大雨時の浸水被害を軽減させるため、公園や区画整理区域内に表面貯留施設や地下貯留施設を設置し、雨水流出抑制対策を推進しています。



治水の取り組み

2023 年度までに 56 施設を設置し、累計の貯留量は 202,521 立方メートルとなります。



熊野桜佐雨水 3 号調整池

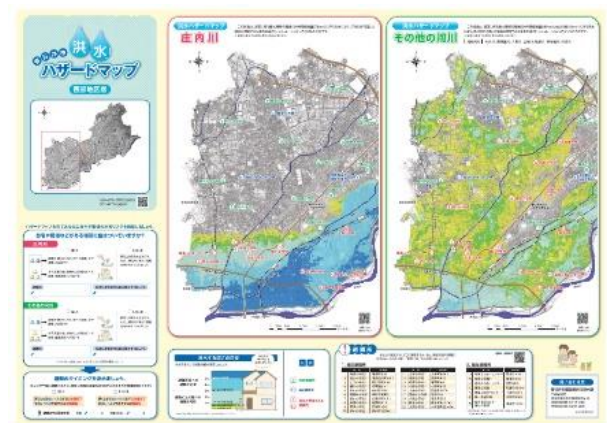
○洪水ハザードマップ及び避難情報等に関する情報提供、注意喚起

市では、国・県管理河川の洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ及びため池ハザードマップを作成し、自然災害が想定される区域及び避難場所等を示しています。



洪水ハザードマップ

また、洪水等により避難が必要となった場合に、市ホームページ、緊急速報メール、安全安心メール※¹、音声架電システム※²、L アラート、X（元 Twitter）、LINE、広報車等様々な手段を用いて避難情報を提供しています。



洪水ハザードマップ

- ※¹：安全安心メール：「春日井市安全安心情報ネットワーク」に情報配信登録をされた方に気象情報（気象、地震、避難情報等）などをメールで配信
- ※²：音声架電システム：区長・町内会長・自治会長等（避難情報等を発令した地域が対象）に対し、自動音声による電話連絡を一斉に行うことができるシステム

第4章 生物多様性地域戦略



生物多様性地域戦略の概要

策定の意義

生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性を浸透させるとともに、多様な主体による取組みを進めることです。

めざすまちの姿

東部の丘陵や河川沿いに広がる田園地帯などを中心とした豊かな生態系や良好な景観が、多様な主体の活動により保全され、その恩恵が享受できています。

私たちの暮らしが生物多様性による恵みによって支えられていることを、一人ひとりが正しく理解し、次世代へ継承されています。

戦略の体系

— 基本方針 —

— 施策 —

1

多様な生き物の生息・生育
環境の保全

- ・ 生息・生育環境の保全
- ・ 関係部署との連携
- ・ 外来種対策

2

持続可能な生物多様性の
恩恵の享受

- ・ 良好な自然環境の維持
- ・ 恩恵の持続的な利用
- ・ 自然とのふれあいの場の提供

3

生物多様性を支える人材
の育成

- ・ 環境啓発の拡充
- ・ 保全活動の推進
- ・ 生物多様性を支える仕組み作り

基本方針 1 多様な生き物の生息・生育環境の保全

目標の進捗状況

目標 市域全体の自然環境基礎調査

市域全体の自然環境基礎調査の計画立案を進めています。

施策の展開

○希少野生動植物種の保護

市では、希少な野生動植物を守るために、2012年1月10日、市指定希少野生動植物種8種を指定しました

○植物：シデコブシ、ササユリ、ヒメカンアオイ

○動物：カヤネズミ、ヨタカ、ナゴヤダルマガエル、ギフチョウ、ヒメタイコウチ

自然環境保全活動推進員が毎年度継続的に月1回の巡視活動を実施し、希少種の調査や保護啓発を行っています。また、緑と花のフェスティバルやエコワールドなどで自然環境保全や外来種問題等について、パネル展示やパンフレットにより周知啓発を行っています。



指定希少
野生動植物種



パンフレット「守りたい春日井の自然」

○外来種の放逐等の規制

市内で問題となっている身近な外来種を取り上げ、

「外来種はどんな問題を起こすのか」、「どのように入ってきたのか」を例示し、外来種問題を「知ること」、「認識すること」を目的としてパンフレットを作成しています。



市内で捕獲されたカミツキガメ



外来種に関するパンフレット



外来種について

基本方針 2 持続可能な生物多様性の恩恵の享受

目標の進捗状況

目標	前回値	最新値	目標値	進捗状況※
市内全体の緑被率	42.0% (2014 年度)	40.6% (2020 年度)	維持(40.6%) (2030 年度)	
民有地緑化の箇所数を増やす (あいち森と緑づくり事業)	3 箇所 (2022 年度)	4 箇所 (2023 年度)	5 箇所 (2030 年度)	

※：データが得られた最新年度時点での評価

施策の展開

○少年自然の家周辺での取組み

愛知高原国定公園に指定されている、優れた自然環境に恵まれた少年自然の家周辺において、地域の自然を活かした様々な自然学習を実施しました。（25 イベントで延べ 6,614 人参加。）



少年自然の家

少年自然の家周辺での自然学習（2023 年度）

イベント名	開催日等	参加者	内容
全力！N スポーツ×キャンプ	5月13日（土） ～5月14日（日）	22 人	薪割りマラソン、トレイルランニング、カナディアンカヌーなど、自然の中で身体を動かし、その良さを体感した。
野外活動・自然体験指導者講座	5月27日（土）	61 人	プロジェクト・ワイルドのエducーター養成講座
きらめきキャンプ ホテル＆カヌー	6月10日（土） ～6月11日（日）	24 人	ナイトハイクでのホテル観察、ホテルの住む川に流れる水を貯める築水池でのカヌー体験を通して、自然の中での活動を楽しんだ。
ハチミツしぼり体験	6月17日（土）	36 人	ミツバチの生態を学び、自然とのつながりを考える機会を与え、ハチミツをしぼって自然の恵みを味わった。
築水池カヌー体験	7月22日（土） 7月23日（日）	61 人	カヌーでしか味わえない景色を楽しむとともに水鳥の視点で水上から自然観察を実施した。
サマーキャンプ 2023	7月29日（土） 8月11日（金） ～8月15日（火）	31 人	子どもだけの長期（4泊5日）テント泊のキャンプを実施した。
自然体験プログラム （夏季・冬季）	夏季 7月21日（木） ～8月31日（水） 冬季 12月16日（土） 他5日	823 人	夏季 ナイトハイクと天体観測・火おこし体験他 冬季 餅つき・キャンドルづくり・たき火＆焼きいも他
全力！虫とり ×キャンプ	9月16日（土） ～9月17日（日）	23 人	虫ざんまいのキャンプを実施した。

イベント名	開催日等	参加者	内容
初めて挑戦！ アウトドア[夏]	6月24日(土) ～6月25日(日)	38人	初めての仲間と宿泊棟に泊まり、季節にあわせた自然体験を実施した。
初めて挑戦！ アウトドア[秋]	10月14日(土) ～10月15日(日)	39人	
初めて挑戦！ アウトドア[冬]	11月25日(土) ～11月26日(日)	33人	
地域ミライ防災 ×キャンプ	10月28日(土) ～10月29日(日)	17人	災害時に必要な技術を学ぶキャンプを実施した。
冬のファミリー キャンプ	12月9日(土) ～12月10日(日)	34人	家族で自然素材を使ったリースづくり、もちつき等を実施した。
たき火くらぶ	12月～2月の平日	144人	マツ枯れ被害を食い止めるため、その防除を目的に伐採した材を中心にたき火と冬の自然に親しんだ。
わくわく自然ランド	年4回実施	154人	身近なフィールドである春日井の東部丘陵の魅力と四季折々の自然に触れるイベントを実施した。
あそびむしくらぶ	年11回実施	244人	2、3歳児とその保護者を対象として、年間を通じて身近な自然環境を体験するイベントを実施した。
自然学校	年5回実施	78人	地域特有の湿地と生物の観察や雑木林の手入れを通して里山の生物多様性とその保護の必要性を学ぶイベントを実施した。
大人の里山歩き	年7回実施	82人	東部丘陵の四季折々の自然を感じながら里山歩きを実施した。
ツキイチ里山歩き隊	年10回実施	98人	里山の自然を楽しみ、健康維持のためのウォーキングやトレッキングを実施した。
里山体験 [田んぼと森の学校]	年9回実施	262人	米作りや森の手入れを中心に、豊かな里山の自然を五感を使って楽しむ講座を実施した。
自然大好き！野あそびくらぶ	年5回実施	58人	親子で野遊び（自然体験と外ご飯）を楽しんだ。
環境教育プログラム	随時	977人	プロジェクト・ワイルドのアクティビティで野生生物の生態や行動を通じて、自然環境について学ぶ教育プログラムを実施した。
ネイチャーガイド ×トレッキング	随時	2,364人	小学5年生（野外学習）を対象にガイドと一緒に歩き、四季折々の自然を感じながらトレッキングを実施した。
野外学習 夜間プログラム	随時	707人	ナイトハイクをしながら夜の野生生物の生態について学ぶ学習プログラムを実施した。
出張自然講座	随時	204人	申込者のニーズにあわせた自然講座を実施した。

基本方針 3 生物多様性を支える人材の育成

目標の進捗状況

目標	前回値	最新値	目標値	進捗状況※
「生物多様性」の言葉の意味の認識率	—	51.2% (2020 年度)	75.0% (2030 年度)	
☆ 自然環境保全活動推進員の委嘱人数（任期 2 年）〔延べ〕	226 人 (2021 年度)	249 人 (2023 年度)	350 人 (2030 年度)	

※：データが得られた最新年度時点での評価

施策の展開

○自然観察会・自然環境学習会

自然とふれあう機会の提供と、自然環境の保全に対する理解と関心を深めるため自然環境保全活動推進員が講師となり、自然観察会・自然環境学習会を実施しています。

2023 年度は、自然観察会と夏に 2 回、冬に 1 回自然環境学習会を実施しました。



自然観察会
自然環境学習会

実施内容（2023 年度）

イベント名	開催日	場所	参加者	内容
自然観察会※	7 月 29 日（土）	高蔵寺 ふれあい センター	21 人	庄内川にすむ生き物の観察と川の水の水質調査を行った。
夏休み自然環境学習会 「自然観察とレクリエーション」	8 月 5 日（土）	高森山公園	12 人	高森山公園で野生植物等の観察を行った。また、動物をテーマにしたネイチャーゲームを行った。
夏休み自然環境学習会 「実験と工作」	8 月 29 日（火）	落合公園	26 人	落合公園で水の特性を用いた様々な実験や自然素材を使った工作を行った。
冬の自然環境学習会 「自然観察と工作」	12 月 23 日（土）	潮見坂 平和公園	22 人	潮見坂平和公園の山林や竹林の中で野生植物等の観察を行った。また、公園内の自然素材を使った工作を行った。

※：東部丘陵生態系ネットワーク協議会の主催する「あいち自然再生カレッジ」の講座として実施



自然観察会



自然環境学習会



自然環境学習会



自然環境学習会

○自然環境保全活動推進員

自然環境の保全に関する知識の普及や保全活動の推進のため、2023 年度は、第 9 期（2023、2024 年度）の推進員 23 人で活動しました。

この推進員は、自然環境の保全を推進するリーダーとして、次の役割を担います。



自然環境保全
活動推進員

- ① 自然環境の保全に関する普及活動の推進
- ② 自然環境の保全に必要な巡回活動
- ③ 自然環境調査等への協力
- ④ 指定希少野生動植物種の保護啓発の巡回活動

～2023 年度の活動内容～

- 1 希少種保護の巡回活動 月 1 回
- 2 意見調整や情報交換のための連絡会議 年 6 回
- 3 資質向上のためのステップアップ講座 年 8 回

4 月「竹林の整備」、「ギフチョウの成体数調査」、「春日井市の蝶の変遷とギフチョウ」

5 月「ツバメ調査」、9 月「ネイチャーゲーム」、10 月「不思議な蜘蛛の世界をのぞいてみよう」、

「地質を学ぶ」、11 月「施設見学」、1 月「竹林の整備」、3 月「春日井市の蝶の変遷とギフチョウ」



ステップアップ講座
(竹林の整備)



ステップアップ講座
(施設見学)